

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200067		
法人名	社会福祉法人 恵母の会		
事業所名	小規模多機能「かいさいの華」		
所在地	岐阜県海津市平田町野寺1092-1		
自己評価作成日	平成25年 7月 9日	評価結果市町村受理日	平成25年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2013_021_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200067-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年 8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年の10月に開所したばかりの新しい施設です。地域密着の特養が同じ施設内にあります。住み慣れた地域で、見慣れた景色の中 馴染みの人達に囲まれながら、いつまでも 安心して暮らせる そんな施設でありたいと 職員一同思っています。施設のめの前に 小学校があり、毎日 子供たちの声・姿が 癒してくれています。地域の方・ご家族様に助けて頂いて、利用者様が 生きがいのある在宅生活になる様頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の出来ること、出来ないことを把握して自立に向けたケアに取り組んでいる。また、地域住民との交流を大切に馴染みの関係が継続できるよう努めている。地域行事の参加やボランティアの受け入れなど、交流を深めつつある。市町村ともなんでも相談出来る協力関係を築いている。代表者は、設立時に職員からの脱衣場にトイレ設置の要望を取り入れるなど、職員の要望を聞き、提案や要望など言い易い関係を築いている。協力医による医療についての勉強会を毎月行い、職員のケアに対しての探究心の向上に繋げている。地域の高齢者を自宅で出来るだけ長く安心して過ごせるよう、事業所の特性を活かして支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ研究会・施設ミーティング等の会議。朝夕の報告会にての会議を通じて取り組んでいます。	利用者の自立に向けた支援を目指し、地域の中で馴染みの人達に囲まれ安心して暮らせるよう、「寄り添う介護、思いやりをカタチに…」という理念を実践している。管理者や職員は理念を理解し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に 施設訪問して頂いています。小学校・自治会の行事の参加も積極的におこなっています。小学校マラソン大会の応援・地域のお祭り・左義長にも参加しました。	地域のお祭りや自治会の活動に参加している。車イス点検・修理やレクリエーションのボランティアを受け入れている。地域の人から花をもらったり、栽培方法を教えてもらったり、地域の人と交流を深めつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの相談があれば、出向いて 速やかに問題解決ができるようにせて頂いています。認知症の理解に向けて介護教室の開催も考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開催させていただいている。ご家族様の参加もあり、活発な意見交換が毎回できています。少しでも利用者様が過ごしやすい環境を整えていく努力をしています。	事業所の近況や行事等の報告を行っている。小規模多機能の事業内容等を説明し理解を深めているが、併設した地域密着型特別養護老人ホームと一緒に運営推進会議を行っている。	個人情報保護やプライバシーを守る観点から、利用者・家族が状況や意見・要望等を言い易いよう工夫し、併設施設と区別した会議の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場でも連携がありあます。困難事例に対して地域包括に報告・相談をおこなっています。また 各地域の民生委員さんとの連携もおこなっています。	市担当者とは何でも相談出来る関係を築いている。小規模多機能の制度等について相談し、意見を参考に事業所内で話し合い、運営に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の外部研修に参加をしています。月1回の身体拘束委員会も立ち上げて職員間での理解を深めています。	職員は採用時に身体拘束や虐待防止に関する研修を受講し、定期的な内部研修に参加し、職員間で話し合い理解を深めている。玄関の鍵はかけておらず、帰宅願望のある利用者には職員と一緒に同行し寄り添い、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待に関しては 職員同士でもお互い気を付けて、防止に努めています。		

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ研究会・施設ミーティング等の会議で勉強する機会を作っていくたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様・ご本人様に 施設見学をして頂きます。十分な説明をさせて頂いています。時間をかけて契約時も説明させて頂き契約して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時・運営推進委員会等からも率直な意見を聞く事もあります。どんな場合でも即座の対応しています。苦情も報告書を通じて各職員に反映させて頂いています。	訪問や送迎時に体調確認と共に家族に意見や要望を聞き、利用者の細かい要望にも応えるようにしている。家族から地域行事参加や入浴支援の意見を職員間で話し合いケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設ミーティング・朝夕の申し送りの中で意見・提案を聞く事が出来ています。又気づきノート・気づき箱の設置も活用されています。みんなの話し合いの中で良い方向に反映させていきます。	申し送り時や併設施設と一緒にミーティング時に出した意見について話し合い、提案も聞いている。気づきノートや研修会毎のレポートに職員個々の意見・要望欄を設け言い易い工夫をしている。職員から日々の勤務体制・利用者の入浴方法等の意見が取り入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見箱・施設ミーティング・の中でも職員の素直な意見の把握をおこなっている・年1回の慰安旅行・ポーリング大会・新年会等を通じてのコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に グループ会社内での研修を開催しています。外部研修も職員からの希望で、積極的に参加をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括主催の勉強会の参加を積極的に参加しています。		

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・職員間の信頼関係を 寄り添う事・傾聴していく事で構築していきます。朝・夕の申し送り会議・その他の場面でも 話し合いを深めていっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	送迎時・定期的な訪問の中で利用状況の報告をさせて頂いています。毎回の利用の報告もおたより手帳にも記入させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設・包括支援センター等のケアマネ・相談員にも情報を頂いています。相談も常におこなっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共有する時間の中で、人生の先輩として傾聴していく。教えて頂いているという姿勢を忘れずに支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡帳の活用をおこなっている。家族からの欄もあるので そこに 相談等の記入もおこなってもらい TEL等の連絡で時間をかけて相談にのっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の中でも 近所の人や曜日が合うようにプランを作っている。サロンの様子もみられる。今度は 近隣の喫茶店に行く計画をしている。	利用者の意向に沿い、地域の馴染みの人が集うサロンのような雰囲気づくりをして関係が途切れないよう支援している。通いの利用時に知人や友人に会えるよう働きかけ、日程を調整している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に孤立されている利用者様はみられません。リーダーシップをとって頂ける利用者様もいるので声掛けも 利用者様内でできています。		

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方も 介護情報等持参して、お見舞いをおこなっている。本人・家族に声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重させてもらっている。困難がある方には、ご家族の協力も頂いている。	日々のかかわりの中で、利用者のしぐさや表情の変化で思いや意向を把握している。本人からの把握が困難な場合は、暮らし方の意向や思いを家族に聞いて把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様にお話を聞いている。ご兄弟・親戚の方にお会いできたら、お若い頃の事(一番輝いていた頃)の話も 本人と合わせて聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自宅内での心身状況は、送迎時等には必ず伺っている。連絡帳の記入からも把握しています。毎回のバイタルチェックもおこなっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成にあたり、スタッフからの意見を聞いている。介護計画の案を作成して、ご本人・ご家族様の同意にて完成をさせていっています。	サービス内容、対応方法を説明して、利用者・家族からの意見や要望を聞いている。申し送り・気づきノートから読み取り、職員から利用者の出来ることや要望を聞き取り介護計画を作成している。また、毎月、モニタリングもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個別に記録を毎回記入しています。情報は職員全員がいつでも 共有ができる ファイルにて綴じてある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の要望に随時答えている。利用日以外でも 施設・多機能携帯にTELを頂いている。いつでも訪問もできる体制をとっている。		

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署に防災訓練の依頼をおこない 訓練実行している・救急救命の訓練も開所前に職員全員がおこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者様は かかりつけ医を利用をされている。必要であれば 受診に同行させて状況把握をおこなっている。FAXにての連絡もおこなっている。	すべての利用者が、家族の付き添いでかかりつけ医を受診している。退院直後や病状が不安定な時は職員も同行している。受診後には、訪問して家族から結果を聞いている。直接かかりつけ医に問い合わせることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りを中心に意見交換をしています。必要であれば 受診にて早期治療をおこなって頂く。看護師から主治医への連絡もおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は ケアマネジャーが介護サマリーを持って訪問をおこなっている。病院関係者との情報交換もその後もおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ 終末期の方はおみえにならない。今後は 各利用者様・家族・主治医との連携の中で話し合いの場面が必要である。	協力医による医療に関する勉強会は毎月行い、職員も積極的に参加している。しかし、重度化や終末期に向けての事業所の方針を検討中のため、契約時に利用者・家族に説明されていない。重度化等について取り組む体制が確立されていない。	重度化や終末期に向けての方針を早急に明確にし、利用者・家族に事業所の出来る事を説明することを望みます。また、利用者家族等の意思確認をしながら話し合いを重ね、関係者と共に取り組むことも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の方法・救急訓練は消防署の指導も受けています。グループ勉強会・施設ミーティングにて研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。今後は夜間訓練も計画しています。	消防署の指導を受け、利用者と一緒に避難訓練を実施している。地元の消防団や地域住民に協力を呼びかけている。一年を経過していない事業所ということで、夜間想定訓練は、次回に行う計画がある。	

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の人格を尊重していく。声掛けに対しても申し送りの場の中でも、自己反省も常におこなっていき、意識していく事を再確認しています。	接遇の研修会や会議で言葉使いや利用者の方の人格を尊重した対応について、理解を深めている。また、気になることは職員間で注意し合い振り返る機会を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おひとりおひとりの生活を大切に思って支援をおこなう事、寄り添う介護をおこなっていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを守っていきます。おひとりおひとりの生活を大切に支援をおこなっていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お泊りの方もいます。その日に着るお洋服等 自分で決めて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には おしぼりたみ・机拭き等 できることの支援と一緒にこなしている。配膳・下膳も手伝って頂く。コップ洗いもして頂いている。	利用者の力を活かしながら、食卓の準備や後片付けと一緒にしている。毎月、利用者と一緒におやつ作りを行い楽しめるよう支援している。自宅の夕食と重ならないよう献立表を届けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った 食事の形態・量 にさせて頂いています。水分補給も 1日の水分量もチェックしている。食事制限の利用者様の対応もさせて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを毎回 おこなっている。		

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とさせて頂いている。排泄パターンを知る事でトイレ誘導をおこなっている。トイレ案内も時間を決めてお誘いしています。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。トイレ誘導することでオムツからリハビリパンツになった事例もある。夜間もポータブルトイレを置いているが、できる限りトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めに水分補給をおこなっている。排便チェックもおこなっている。自宅での情報も収集している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中の中の入浴をおこなっています。入浴時は ゆったりと時間を過ごして頂ける様に努めています。	希望すれば毎日の入浴も可能である。利用者のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、言葉がけを工夫している。また、訪問でも入浴介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った お昼寝・就寝時の過ごし方を務めさせてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心になって服薬管理をおこなっている。利用時に預かって服薬支援をおこなっている。必ず 本人のであるかを確認している。基本的にはNSがおこなう事とする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ・テーブル拭き・配膳・新聞折等・箱作り等が自分の役割ができるように促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩はおこなっている。帰りの送迎時に花見をおこなって帰宅したりしている。涼しくなったら 喫茶店に行く経過烏をしている。	天候によって、近所へ散歩に行っている。花見の季節には、遠回りをして花見をしながら送っていくこともある。買い物、喫茶店などの外出も取り入れる計画をしている。	

小規模多機能「かいさいの華」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今後は 買い物に行く計画もたてていく予定です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今後は 手紙を書いたりする計画を考えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を 玄関等に飾っています。また季節・行事にあった飾り付け等をして、目でみて楽しまれています。お花は 利用者様に 生けて頂いています。	共用空間は、天井が高く日差しが入り明るく、居心地が良い。和室の好きな利用者に畳のコーナーで会話や昼寝ができ、お茶も楽しめるよう座卓を置いている。季節や行事の飾り物、生け花など季節を楽しむ工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな位置があります。気の合った方同士が集まって 好きな事をして頂いています。孤独になる人のない様になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊時には慣れた居室を提供しています。トイレに近い場所 ベットの位置等の配慮をおこなっている。	泊まり時は、同じ居室を利用出来るようにしている。利用者が混乱しないように利用者・家族に説明し、使い慣れた時計や日用品、テレビなどを持参してもらっている。また、訪問時に部屋を見て、ベッドの配置にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の机の名札・お泊りの名札・トイレにも人形の絵をつけてわかる様にしています。		